

奨学生願書										
ふりがな	たろう			※ <input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女			奨学資金の貸与希望期間			
氏名	ひたちなか 太郎			平成〇〇年〇〇月〇〇日生 (満〇〇歳)			令和6年 4月から 令和10年 3月まで 4年 月間			
進学希望校 又は在学学校	高等専門学校 専修学校			課程 学部			科 第 学年 科			
	〇〇大学 〇〇学部			〇〇科			所在地 〇〇県〇〇市〇〇〇〇			
希望する奨学資金	※ <input checked="" type="radio"/> 奨学金 ・ 入学準備金			入学準備金の申請額			円			
本人	住所 ひたちなか市〇〇〇〇 (方)									
	電話番号 〇〇〇 (〇〇〇) 〇〇〇〇									
家族住所	ひたちなか市〇〇〇〇 (方)									
	電話番号 〇〇〇 (〇〇〇) 〇〇〇〇									
家族の状況	続柄	氏名	年齢	職業	勤務先	年収 (税込)	父又は母死亡のときはその年月日			
	<input checked="" type="radio"/> 父	ひたちなか 一郎	46 歳	会社員	〇〇(株)	4,800,000 円	(歳)			
	母	ひたちなか 花子	45	パート	〇〇製 作所	1,023,000	就学者の 在学名	学年	通学方法	現在までの 市奨学資金 貸与の有無
	本人	ひたちなか 太郎	18	大学生			〇〇大学	1 年※	<input checked="" type="radio"/> 自宅 <input checked="" type="radio"/> 自宅外	※ 有 <input checked="" type="radio"/> 無
	<input checked="" type="radio"/> 姉	ひたちなか 勝子	20	大学生			〇〇大学	3	<input checked="" type="radio"/> 自宅 <input checked="" type="radio"/> 自宅外	有 <input checked="" type="radio"/> 無
	妹	ひたちなか 湊子	17	高校生			〇〇高校	2	<input checked="" type="radio"/> 自宅 <input checked="" type="radio"/> 自宅外	有 <input checked="" type="radio"/> 無
	祖父	ひたちなか 次郎	78	無職		2,400,000			<input checked="" type="radio"/> 自宅 <input checked="" type="radio"/> 自宅外	有・無
	合計 (5 人)									
×申請番号	本市 前奨学生	決定番号と学校名			貸与期間		借用証書提出×		×決定番号	
					年 月 から		年 月		第 号	
<p>家族の状況は、申請時点の状況を記入してください。</p>										

(裏面)

家族経済状況及び奨学資金貸与希望理由	姉は東京都にある大学に進学し、自宅外通学をしており、妹は私立高校看護科2年に在学中です。また、祖父は腎臓が悪く入退院を繰り返しているため、今後、病状が悪化すれば、腎臓透析が必要になると言われているため、母親は、現在の週3.5日の就労を短縮する必要があると予想されます。		
	現在でも、学費・生活費・医療費の出費が大きい状況ですが、私が私立大学に進学することを希望しているため、両親の経済的負担を少なくしたいと思い応募しました。		
	奨学金希望者本人が、家庭事情や経済的な状況について、詳細に記入してください。		
本人の履歴	〇〇年 3月 〇〇市立〇〇中学校卒業	年	
	〇〇年 3月 〇〇県立〇〇高校卒業	年	
	年 月	年 月	
以上のとおり記載に相違ありません。 奨学生として採用の上、奨学資金の貸与をお願いします。 なお、採用の上は、ひたちなか市奨学資金貸与条例の規定に従い、奨学生としての責務を果たすことはもとより、奨学資金の返還その他の義務についても、両名連帯の責任を負うことを誓約します。 令和〇年 〇月 〇日 本人 氏名(署名) ひたちなか 太郎 連帯保証人 住所 ひたちなか市〇〇〇〇 氏名(署名) ひたちなか 一郎 続柄 本人の(父) 昭和〇〇年 〇月 〇日生 ひたちなか市教育委員会 殿			

(記載上の注意)

- ※印の箇所は、該当するものを○で囲み、×印の箇所は記入しないこと。
- 家族の状況のうち、続柄の前に、家計支持者には○印を、別居者には×印を付けること。
- 家族経済状況及び奨学資金貸与希望理由は、具体的かつ詳細に記入すること。
- 本人の履歴は、休学、転学、退学、身分の異動等も理由を付して記入すること。
- 連帯保証人は、父母又はこれに代わる者(本人が未成年者であるときは、その法定代理人)で、市内に住所を有し、将来奨学資金返還の責任を負う者であること。
なお、出願の際は連帯保証人1人でよいが、奨学生として採用されたときは、更に別の保証人1人を要するので、あらかじめ考慮しておくこと。
- 所定欄に記入のないものは、判定材料を欠くものとして不採用とすることがある。